

月待ちの宴 in 白山



《第一場 ‘宵闇’ 》

陽暦長月十七日は
二十三夜でございました。
これから申し上げますのは
江戸の昔より行われておりました二十三夜講に因む
ある秘密の宴のご報告でございます。
題しまして【月待ちの宴 in 白山】



その宴には厳しい掟がございました。
月待ち講は本来 ‘悪霊払い’ の儀式でもございますゆえ
寄り合う方々は必ず
お月様への捧げ物をせねばなりません。

*

戌の刻

宴の幕が開き、お供えのお披露目が始まりました。



先陣を切られたのは当夜の座長、葉月様
舞を舞われ、その曲名を当てよとの謎解きでございました。

まずは第一問。

♪月があ、出た出たあ・・らしき動きに
居合わせた方々即座に
「炭坑節！」ピンポ〜ン
簡単すぎでございますね。

続いて第二問。

♪月はおおぼおろに東山あ〜
「あ、なんだったっけ・・祇園小唄っ」
さすがに歳の功？あやめ姐さんご名答！

そして第三問。

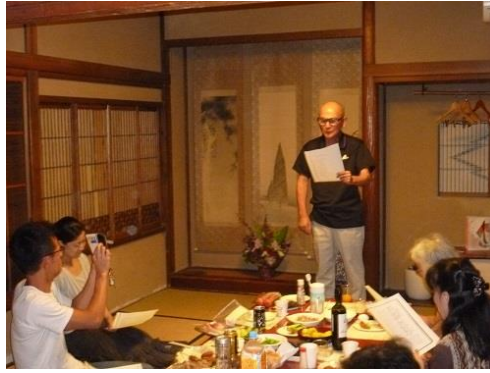
♪春高樓の 花の宴 めぐる杯影さして～
みな様首をかしげられ
「黒田節！」などと応える方もおいでで、ブー
葉月様は当てていただくまで舞われるしかなく
お気の毒なことではございましたが
ともあれ何とかご解答いただき、
優雅な舞のご奉納を無事終わられました。
一指しの舞で言挙げ月の宴



お二人目は、館主様。
館主様は静岡のご出身。
「そうだに」などと色男には似合わぬお国ことばを幾つかご披露されましたが
途中から、同じく静岡は浜松ご出身の○吟様改め○州様と
夜のお菓子、うなぎパイ談議に花を咲かせ
「うなぎパイ VSOP は四枚入りです」
「いや、五枚ですよ」
などと、どんどんマニアックな方角に向かわれ(-.-)
他のみな様方については行けず
ただ静かに拝聴するのみでございました。



「酔いつぶれないうちに」と続かれたのは
詩吟歴十数年の U 祥様
『峨眉山月の歌』
何と格調の高いお供えであられましょう！
♪「峨眉山月半輪の秋・・・
君を思えども見えず渝州を下る」
悠久のロマンは U 祥様ならではのご奉納
どなた様の面影を胸に秘められてか
詩聖李白もかくや
切々と謳い上げられました。
居並ぶ方々は束の間時空を超え
壮大な唐の時代にタイムスリップと相成りましてございます。



時空超え李白朗々月を待つ

《第二場 ‘闌 (たけなわ)’ 》

宴も佳境に入っまいました



エスニックなご衣裳がお似合いのモモカ様
萩原朔太郎『月に吠える』より“悲しい月夜”
この地にいらして四年となられるモモカ様は
山歩きやご旅行がご趣味の自由人
旅先ではさぞや美しい月夜をご覧になられていることごさいます。
今宵の宴の膳のご用意などは
モモカ様の並々ならぬお働きあつてこそ。



そうごさいました。

<しづかの間>の本日の室礼 (しつらい)

床の間のお花や月の絵本は
百合や様のディスプレイごさいます。



さて

館主様が席を外される前に、と

威勢よく立ち上がられたのは
その百合や様&美雨様の朗読デュオ
三日月の美しく描かれた絵本でのご奉納でございました。
『めっきらもっきらどおんどん』（長谷川摂子作）
そのご容貌もさることながら
若いお二人のドラマティックなリーディングは
中座するはずであられた館主様をも圧倒
腰を抜かされたのか、
館主様は暫し身じろぎもされず
お二人を熱いまなざしで見つめ続けておられました



ところで、
あやめ姐さんことあやめ様は
「わたくしなど、なんにもできませぬゆえ」と
お供え物もシンプルに、なんと『お賽銭』
お月様へのご寄進とのことでございます。
万事に控えめなあやめ様ではございますが
誰あろう
裏の顔は
幅広いご人脈で適材適所に人を送り込まれる
泣く子も黙る‘手配師’であります。
また
演技派女としてのあやめ様は
「来年の“夢十夜”はセリフを見ずに」などと
役作りにはいたくご熱心
今から意欲のほどを示されていたらっしゃいました。



《第三場 ‘月の雫 (しずく)’ 》

夜も更けてまいりました。



いよいよのご登場！

自称徳永英明の〇州様でございます。

今宵歌うは『月のしずく』

♪言の葉は月のしずくの恋文 (しらべ)

悲しみは泡沫 (うたかた) の夢幻～

下弦の月が浮かぶ鏡のような水面 (みなも)・・・

映画『黄泉がえり』のテーマ曲だそうでございますが

当夜はまさにその下弦の月

昼のサロンでも様々な工夫を凝らしてお歌を披露される〇州様

今宵の選曲もお見事

皆様ひたすら感服の体

‘ハスキーなお声は確かに徳永英明’

とのお墨付きは

徳永ファンであられる葉月様より。





おや？先ほどから何やらぶつぶつ呟きが
お声の主を見やりますと
ある時は●●マン
又あるときは▲商
しかして今や■●理事と
七つの顔を持つ男、M様でございました。
M様は日ごろのサロンでは
穏やかに皆様のご発言を聞かれるばかりでございますが
今宵はしたたか聞き召されたのか
いやにご注目を浴びたいご様子。
くどくどと・・・あっと失礼いたしましてでございます・・・
ともかく

「口上はそのくらいにして、早くやれっ」
などと葉月様近辺から乱暴なヤジも飛び
おもむろに謡われたのは
吉田拓郎『旅の宿』
♪ゆかたの君は ススキの簪イ～
上弦の月だったっけ、久しぶりだね～
と

ネクタイもいつの間にか外され
大変艶っぽく謳い上げられました。



貢物セレモニーの最後を飾るお方は
ニューフェース
R子様でございました。
なんと、R様は
人間国宝の孫弟子に当たられる

長唄のお名取様でいらっしゃいます！

が

「今宵はひらにご容赦を」

とのことで

大変残念なことではございましたが

R子様にはたくさんのご馳走をお持ちいただいた手前

『岸の柳』が聞きたいなどとは

さすがの座長様もご所望できず

次回に期待いたしまして

悪霊払いの総仕上げ

U祥様の音頭により

一本締め

よ～おっパン！



夜長さえ短しと思ふ宴かな

下弦の月の出

子の刻にはまだ間がございましたが
そろそろお開きと相成りましてございます。

*

館を出ますと、おや？

夜のしじまに

ポツリポツリと

月の雫

悪霊は雨となって

退散した模様でございました。

めでたしめでたし



月の兎よりのご報告でございました<(_)>